
気が付いたら、魔王の部下になってました・・・

零堵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

気が付いたら、魔王の部下になってました・・・

【Nコード】

N9433Z

【作者名】

零堵

【あらすじ】

俺こと、初崎孝之は、気が付いたら、魔国、エデルドと言う所にいた。

そこで出会ったのは、魔国の魔王、マイ三世だった。

元の時代に戻りたかったが、全く帰り方が分からず、マイ三世に「帰る方法は？」と聞いた所

「そんな事より、私の部下になれ」と言われ、結局俺は、マイの部下になってしまった。

これから、どうなるのか全く分からなかったが、なんとか頑張っ

にじんと思ってしまったのである・・・

「プロローグ」魔国に迷い込みました（前書き）

はい、零堵です。

新しく投稿します。

「プロローグ」魔国に迷い込みました

気が付いたら、全く知らない場所にいた。

ここは、どこなんだ・・・？と辺りを見渡してみる。

そこは、部屋の中で、白で統一されていて、明かりも中世の世界に出てきそうなライトで

照らされていた。

窓があったので、窓の外を見て、驚く。

何故なら、伝説上の生き物と言われている、ドラゴンが数十羽飛んでいて

空を見ても、太陽が二つに見えた。

うん、どう見ても、ここは日本じゃないよな・・・と、思われる。

「一体、ここは何所だ・・・？」

俺は、これまでの事を思い出してみる。

確か、家の中で新しく買ったゲームをプレイしようとして、ゲーム機のスイッチを入れた瞬間

気が遠くなって、この場所にいたと言う訳だった。

自分の服装を確認してみると、服装は意識が無くなる前のそのままで、ジャンパーに長ズボン姿だった。

うん、ひとつ言える事は・・・この世界でこの格好って・・・変じやないか？と、思ってしまった。

「とりあえず、ここから外に出てみよう」

そう思つて、部屋の外に出ようと考えて、扉があったので、そこを開けてみる。

扉をあけると、長い廊下が現れた。

一方通行だったので、その道を真っ直ぐ歩くと、二つの扉があった。右の扉が、赤色の扉で、左の扉が青色をしていた。

俺は、どっちに行こうと迷ったが、覚悟を決めて、赤い扉を開けてみる。

中にいたのは、豪華なイスに座っている。美女がいた。

「貴様、何者だ？何所からこの、魔王の城にはいった？」

「ま、魔王！？」

「何を驚いている、私は第三代魔王の、マイ三世だが？お前の名は？」

「お、俺は初崎孝之、日本人だ！」

「日本・・・？それは、なんだ？」

「に、日本を知らない・・・？じゃ、じゃあここは？」

「ここは、我が魔国、エデルドだが・・・孝之、お前はまさか・・・勇者か？」

「そんな訳ないだろ！？てか、勇者っているの！？」

「もちろん勇者はいるぞ、我に戦いを挑んできて、うっとしいんだがな、まあ、戦うのは暇つぶしに丁度いいんだが」

「丁度いいのかよ！しかも、勇者との戦いが暇つぶし！？」

「何か問題でもあるか？」

「問題あるだろ！？はあ・・・なんか、つつこむのも疲れてきた・・・とりあえず、俺の事情を聞いて下さい」

そう言つて、俺は、魔王マイ三世に、ここに來た事情を話す。

すると、マイ三世は、こう言つてきた。

「ふむ・・・気がつけば、この国に迷い込んだつて言うのか・・・、孝之、お前は元の世界に帰りたいというのだな？」

「はい、出来れば、今すぐに帰りたいです」

「ふむ・・・、決めた、我の部下になれ」

「はい？な、なんで、俺が魔王なんかの部下に！？」

「それはだな・・・退屈だったからだ、勇者も最近現れてないしな、部下も勝手に人間国に遊びに行つてたりするし、しょくじきに言つて暇なのだよ、だから部下になれ、これは命令だ」

「嫌つていつたら？」

「ここから出て行つて、無事でいられるのか？外は、魔族でいっばいだし、仮に人間国に行けても、人間国から、魔国エデルドから來

たつてばれたら、殺されると思うんだが？それでもいいのか？」

「う……」

俺は、考える。確かに、ここから逃げた場合、魔族とかに見つかってやられるかもだし

かと言つて、人間国とかに無事入つても、この国から来たつてばれればどうなるか

分かった物じゃないし……そう、考えて、俺は、こう言う事にした。

「わ、分かった……部下をやつてやる」

「よし、決まりだな、あゝこれから楽しくなりそう！私の事は、マイでいいよ〜」

なんか、一気に魔王の話し方が、がらりと変わったので、質問してみる。

「なんか一気に話し方が、変わったんだが……？」

「魔王のイメージって大切でしょ？初めてきた相手には、そういう話し方してるだけよ？別にいいじゃない」

「それでいいのか……？」

「いいの、そうね……貴方の事は、孝之と呼ぶわね、じゃあ、孝之、貴方の部屋を用意させるわ、スミレ！出てきなさい！」

マイがそう言うと、天井がパカッと開いて、一人降りてきた。

「マイ様、お呼びでしょうか？」

「孝之は、あの部屋を使つてもらうわ、案内していてくれない？」

「かしこまりました、マイ様、では、孝之様、ご案内します」

「あの一つ質問にいいですか？」

「はい？なんででしょう？」

「なんで……メイド服なんです？」

そう、スミレと呼ばれた人の恰好は、カチューシャにメイド服を着ていた。

あまりにも場違いだろ！？と思うのだが……

「これは、私の趣味で着てるだけですが？何か問題でも？」

「い、いえ・・・」

「では、孝之さま、部屋にご案内します、ついてきて下さいませ」

「は、はあ・・・」

「じゃあね？孝之、何か用があつたら、呼ぶわよ」

「了解・・・」

そうマイが言う。俺は、そう答える事にした。

スマレと呼ばれた人に、案内されて、一端部屋を出て長い廊下を歩き、一つの部屋に、たどり着く。

部屋の前にたどり着くと、スマレがこう言ってきた。

「ここでございます、では、ごゆるりと、っは！」

そう言つて、スマレはジャンプして、天井がパカッと開いて、そこに消えていく。

うん・・・何なんだ？この仕掛けて・・・、そう思いながら、部屋の中に入り

ベットがあつたので、そこで休む事にした。

なんか、疲れたので、これからの事は考えない事にしてさっさと休む事に決めて、目を閉じたのであつた・・・

「プロローグ」魔国に迷い込みました（後書き）

はい、零堵です。

新しく投稿します。

できる限り続けようと思っております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9433z/>

気が付いたら、魔王の部下になってました・・・

2011年12月29日15時49分発行